ボルネオ島におけるチョボグチガエル属の分類学的研究

人間・環境学研究科　修士課程　1 年
福山　伊吹
マレーシア
2019 年 8 月 5 日～2019 年 9 月 29 日

計画の概要

チョボグチガエル属（*Kalophrynus*）はアジアの熱帯地域に広く分布するカエルで、この 1 属のみでチョボグチガエル亜科を成す分類学的に顕著な特徴を持ったカエルである。この属に含まれる 26 種のうち、10 種がボルネオ島に分布し、本属の多様性の中心はボルネオ島にあると言える。半地中性という生態のためか形態的特徴に乏しく、分類学的な問題が多く残されたグループである。

申請者らの予備的研究でも本属には既にボルネオ島内だけで複数の未記載種のみならず未記載属までも含まれていることが明らかになっているが、未だ記載にまでは至っていないのが現状である。主な理由としては前述した形態的特徴が少ないことなどに加えて、本属のそれぞれの種の基準産地標本および遺伝情報が不足していることが挙げられる。

今回の渡航の目的は、ボルネオ島のサラワク州で各種の基準産地を含む広い地域において分類学的研究に必要な、十分な数の標本採集を行うことであった。サラワク州にはボルネオ島から記載された 10 種のうちの 9 種の基準産地が存在し、当地でサンプリングを行うことは本属の分類学的研究を遂行する上で不可欠であり 1 度の渡航だけでも分類学的結論を下す上で十分に有用なデータを得ることができると考えられた。

成果

当初の予定では、2 月ごろに渡航し、北東部の Pulong Tau 国立公園及びサラワク州中部のラジャン川流域での調査を行う予定であったが、許可申請のタイミングなどの関係で、渡航時期を急遽 8 月に早め、準備不足から訪れる産地も北東部の Mulu 国立公園、南部の Kuching 周辺、中部の Bintulu、北部の Limbang と比較的アクセスの良い低地を中心に巡ることになった。それでも、期間中にサラワク州から記載されている 9 種のうちの 5 種の基準産地を訪れてサンプリングを行うことができた。

Mulu 国立公園では Mulu 山に登山し、当地から記載され当地のみに分布するタカネチョボグチガエル(*K. nubicola*)のサンプルを十分に得ることができた。今回の調査ではこれまで知られていなかった高標高地における雌個体を採集でき、大きな成果を挙げられた。

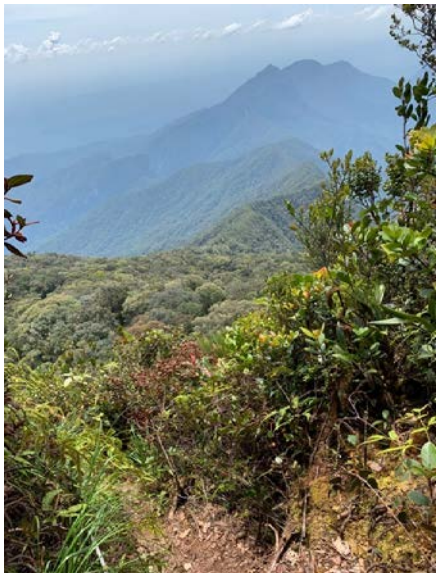
Kuching 周辺では、いくつかの国立公園及び自然公園などを回り、Kubah 国立公園、Gading 国立公園、Serian、Bau と各地でチョボグチガエルを採集することができた。

Bintulu では、2 種のチョボグチガエルの基準産地を訪れたが、残念ながら狙いの種を採集することはできなかった。しかし、これまでサンプルが得られていなかった地点で、1 種のチョボグチガエルを得ることができた。

Limbang では、1 種のチョボグチガエルの基準産地を訪れたが、極度の乾燥により採集することは叶わなかった。

今回の滞在期間中、当地としては珍しくほとんど雨が降らず、カエルの採集には全体的にかなり苦戦した。8 月にサラワク州を訪れたのは 4 回目であったが、これまでは乾季であるとはいえ夕方のスコールなどはコンスタントに降っていたので、雨が全く降らないというのは予想外であった。そのようなこともあり、各種の基準産地ではあまりサンプルを得ることができず、思い通りに行かない調査となったが、これまでサンプルが得られていなかった複数地点から新たなサンプルを得ることができ、また、カエルではないが、その地域初記録のヘビなども採集することができたので、成果としては十分なものが得られたと思う。また、今回は各地を短期間のうちに巡ったので、1 地点を集中的に調査することはできていないが、各地の環境を見て予備調査ができたので、次回は雨季に訪れて大きな成果を挙げられるだろう。

今回得られた標本は現地の研究機関に預けてあり、数ヶ月後に輸出許可がおり次第、日本に持ち帰り、計測などを行う予定である。今回得られた標本の中にも未記載種と思われるものや新産地と思われるものがあり、それらは標本が届き次第、研究を進め、最終的には学術論文として出版する予定である。



調査を行なった Mulu 国立公園

Kuching 周辺で得られた未記載種と思われるチョボグチガエル

Bintulu 周辺で得られたチョボグチガエルの一種